

12/18
(月)

H29年度 第4回 ミニがん教室開催しました

◆テーマ：『抗がん剤治療の主な副作用とその対処法』

★講師： 山田 恭子（当院 がん化学療法看護認定看護師・外来係長）

★座長： 坂口 定子（当院 がん相談支援センター師長）



次回（H29年度／第5回）
日時：2月19日（月）
15時～16時

会場：第1研修ホール
テーマ：「がんと運動」
講師：当院 理学療法士
※当日参加可 ※参加費無料
※当院受診したことがなくても
参加できます

化学療法は、手術療法と放射線療法と共にがん治療の柱です。注射や点滴、内服で血流に入って体中を巡ることで、がん細胞を攻撃する全身的な治療です。

ただ正常な細胞にも入っていくため内蔵や粘膜、神経、皮膚、毛根、骨髄などに影響を及ぼします。それが副作用となって出現します。治療効果を得るためには副作用がでてしまう量を使用しなければならないためです。

様々な副作用の中で、味の変化（味を感じない・苦いなど）は、唾液の減少や味を感じる味蕾（みらい）の影響によるものとされています。うがいなどで口の中をきれいにする、乾燥をさせない、亜鉛やビタミン B12 を含む食品を摂取することをお勧めします。

白血球を増やすには何を食べてほしいかと聞かれることがあります。白血球を増やす食べ物は特になく、何でもバランスよく食べることが良いとされています。

毎年新しい抗がん剤が開発されています。今までとは違う働き方をする抗がん剤もあり、副作用も今までとは異なる症状があります。

医師や薬剤師からの説明の時に、起こりやすい副作用、注意しなければならない副作用を確認してください。

～講演内容より～

亜鉛を含む食品（チーズ、かに缶、レバー、アーモンド、カキ、うなぎ、抹茶、数の子、ココアなど）
ビタミン B12 を含む食品（さんま・しじみ・あさり・レバーなど）

★当院は国が指定する「地域がん診療連携拠点病院」です。

がん対策は、平成 19 年 4 月に施行されたがん対策基本法の基本理念にのっとり推進されています。そのなかで、厚生労働省は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん診療連携拠点病院の整備をすすめています。

★地域がん診療連携拠点病院には以下の役割があります。

◆専門的ながん医療の提供◆地域におけるがん診療連携協力◆がん患者さんに対する相談支援及び情報提供

事務局：がん診療連携課（内線 2205）